

第41回北海道特別支援教育研究協議会 道央地区研究大会・札幌大会 兼全道研修会を終えて

7月30日（火）気温33度を超える猛暑の中、令和最初の研究大会に250名を超える特別支援教育に携わる皆さまにお集まりいただき、盛大に開催することができました。研究大会に足をお運びいただいた皆さまに感謝申し上げます。

午前中は、全日本特別支援教育研究連盟理事長であり、明星大学教育学部教育学科常勤教授 明官 茂 様に、「特別支援教育における『主体的・対話的で深い学び』の具現化に向けて」と題した講演を行っていただきました。講演では、国立特別支援教育総合研究所の御勤務や今回の新学習指導要領の改訂に深く携われた経験を踏まえ、児童生徒にこれからの時代を自立した人間として多様な他者と協働しながら創造的に生きていくための資質能力の育成や授業改善、学習評価など、例を示しながら具体的にわかりやすく話していただき、今後の指導に活かすものがたくさんありました。



午後からは、小学部会、中学部会、義務併設高等部会、重度重複・訪問部会、単置高等部会、寄宿舎部会に分かれ、部会のテーマに沿ってワークショップ形式で進めていきました。各部会では6グループに分かれ、「音楽」、「体育」、「遊びの活動」、「造形的活動」の中から指導場面を決めて話し合い、発表するといった部会や、教科等を合わせた指導において、各教科の目標を効果的に達成するための授業づくりを協議の柱として進めた部会、就業やボランティアに関わる体験的な学習の指導について話し合われた部会など様々なテーマや協議方法で進めました。部会によっては、テーマが大きく、ブレインストーミングによるアイデアの書きにくい所もあったようですが、関心のある部会でのアイデアや話し合われたことは2学期からの授業に反映できる何かを得たのではないかと思います。

様々なご協力をいただき本当にありがとうございました。

近藤 三幸